

第3回 ふるさと高原山を愛する集い 実施報告書



開催日：平成27年10月25日(日)

開催場所：玉生運動広場

ふるさと高原山を愛する集い実行委員会

祝「山の日」制定 ふるさと高原山を愛する集い

～ふるさとを思い、高原山麓での保全活動をみんなで考えよう～

期日：平成27年10月25日（日）

場所：玉生運動広場（旧玉生中学校グラウンド）

主催：ふるさと高原山を愛する集い実行委員会、塩谷町

協賛：とちぎ音の会、高原山神社、船村徹ふるさと会、古木の会
セラピア基金、写真サークルあそぼ、高原山の自然を守る会
JAしおのや、ふんちく、漆原敬、青木修司、小野崎千鶴子



しおのやの高原山10景
「高原4連峰」(久保井久夫さん撮影)

山と川と海は、人が利用するにあたって適切な保全管理があってこそ、はじめて良好な環境が得られるといわれています。“高原山”は栃木県塩谷町の基本構想にシンボルとうたわれているように、住民にとって心の支えであるとともに、水やおいしい空気、大地の恵みなどを供給しています。私たちには“高原山”の素晴らしい自然を次世代に継承していく責務があります。

今年名誉県民に表彰された船村徹先生は“山の日”の制定にご尽力され、いよいよ来年から8月11日が国民の祝日“山の日”として施行されます。“山の日”の意義は「山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する」とされています。本日ご参加いただいた皆様方とともに、ふるさと“高原山”への思いと“山の日”の意義を共有しましょう！

プログラム



10:30～ 開会、あいさつ

11:00～ オープニング

見形和久会長（バルーンPR）、来賓代表

「故郷にて“山の日”を語る」

船村徹先生（作曲家・名誉県民・塩谷町名誉町民）

特別出演

歌手 えひめ恵一氏 「故郷がいちばん」熱唱

内弟子 大門 弾氏 「故郷の山が見える」熱唱

スペシャルトーク

「“山の日”を今後のまちづくりにどう活かすか？」

船村徹先生×小川三夫さん×成川隆顕さん×見形和久会長

「“山の日”に関連する動向」 市川貴大事務局長

～12:00 情報提供

12:00～ 点火！

バーベキュー開始、エコストーブによる釜飯の試食等

12:30～ お楽しみステージ

「きたかん音頭」

イシフロシアとそだんべくらぶさん

「船生昇龍太鼓」

船生昇龍太鼓のみなさん

「道下獅子舞」

道下獅子舞会のみなさん

13:30～ クイズ大会

全員参加で高原山のクイズに挑戦しよう！

13:50～ 緑化推進

「緑豊かな郷土づくりをめざして」 マロニエメイツのみなさん

～14:00 閉会

谷畑方夫副会長

※苗木(ヤマザクラ)の配布

塩谷町緑化推進委員会

故郷の山が見える

木下 龍太郎 作詞

船村 徹 作曲 丸山 雅仁 編曲

鳥羽 一郎 唄

一 いちど東京へ 行くと言いながら

いつも口だけで ひとり野良仕事

老けたおふくろの やせたあの肩を

さすってあげたい

峠 越えれば 俺のふるさと

山が見えてくる

♪ ふるさとの山に向かいて 言うことなし

ふるさとの山は ありがたきかな（石川啄木詩集）

二 けんかしたけれど 何故か気があって

どこへ行くんだと 泣いてくれたやつ

月の縁側で 馬鹿を言いながら

ふたりで呑みたい

幼なじみと共に遊んだ

山が見えてくる

三 村を出るときは ひとり踏切で

汽車が消えるまで 背伸びしていた娘

町へ嫁に行き 母となったいま

しあわせだろうか

恋を失くした 遠いあの日の

山が見えてくる

参加者一人一人がボランティア！ 準備・片付け等ご協力をお願いします！

平成 27 年度地域づくり団体活動支援事業にて一部助成を受けています

ふるさと高原山を愛する集い ～ふるさとを思い、高原山麓での保全活動をみんなで考えよう～

ふるさと高原山を愛する集い実行委員会 市川 貴大

第3回ふるさと高原山を愛する集いが平成27年10月25日（日）に玉生運動広場にて開催されました。第1回目は平成25年5月26日に日々輝学園体験学習館（旧塩谷高等学校）体育館（650名参加）、第2回目は平成26年10月26日に尚仁沢は一とらんど（300名）にて開催しました。今回は第2回目に実施しようと考えていたバーベキュー大会をあわせて実施しましたので報告いたします。

ふるさと高原山を愛する集い実行委員会による事前準備

昨年7月30日に東京電力福島第一原発事故で発生した指定廃棄物の最終処分場候補地選定問題が勃発し、町内は混迷を深めたため、会長の予定も確保できず、ふるさと高原山を愛する集い実行委員会の打ち合わせも出来ないでいました。

実行委員から個別にご意見を伺い、「バーベキューの開催はいかがなものか？」という意見を頂戴しながら、「このままやめてしまったら、今までが何だったんだ、悔しい気持ちだ」という熱い思いをいただき、会長や副会長、幹事の皆様と改めて協議し、今年も実施しようということになりました。

しかし、3～4月の打ち合わせには、実行委員内でも機運が盛り上がりず、また、会長も不在になるなど、議論が進まないため、5月には集い候補地の塩谷砂防エコパークにて、バーベキューの練習をしながら打ち合わせをしようという企画をしたところ、久しぶりに実行委員一同が顔をそろえ、第3回のふるさと高原山を愛する集いの内容について一気に構築することが出来ました。



船村徹先生の予定も抑えることができ、第3回はボランティアを公募せず、実行委員会の構成団体の有志により開催することで一致し、来年から国民の祝日「山の日」となる8月11日に、塩谷町役場をお借りしてプレスリリースを行いました。ところが、やはり諸問題の影響で、記者は思ったより集まらず、ある記者からは「こんな状態で開催するのか！」とかなり強く言われました。後でわかったのですが、8月11日は記者の方もお休みの方が多く、プレスリリースには不向きであったことがわかりました。

バーベキューの申し込みについて、最初はなかなか集まらず、まずは実行委員から声かけをとい



うことで、実行委員会の構成団体の代表の皆さんを中心にお願いに歩きました。これが功を奏し、じわじわ申し込みが増えてきました。町広報誌への掲載も効果的で、「バーベキューを開催するそうですね」などと町内でも認知されるようになってきました。締切期限に申し込みが増える傾向にあり、開催一か月前の締切が良さそうです。

今回はバーベキュー実施のため、新たにバーベキューコンロを新調しました。このため、鉄板を事前に焼く作業を実施しました。あわせて木炭への火のつけ方も確認しました。塩谷町役場にも協力いただきながら、消耗品の購入を週末行い、当日を迎えることになりました。木炭は本来であれば地元産を使いたいところですが、福島第一原発の事故により、使いたくても使えない状況ですので、ホームセンター等で購入しました。



表 ふるさと高原山を愛する集い実行委員会による事前準備

年月日	参加者数	場所	内容
2015年3月22日	7名	星ふる学校 「くまの木」	・第3回の実施を確認 ・バーベキューの実施 ・高原山山開き、低山ハイクの検討
2015年4月26日	10名	星ふる学校 「くまの木」	・10月25日に開催。船村先生の予定はOK ・バーベキューセットは200セット用意し、ふるさとしおや応援団にも周知 ・日だまりハイク(仮称)は集い終了後検討
2015年5月23日	17名	塩谷砂防 エコパーク	・開催要領(ステージ関係)の検討 ・バーベキューを実施し、内容を検討 ・協賛団体は無理しないで募集する
2015年6月20日	10名	上寺島 活性化施設	・開催要領(ステージ関係)の検討 ・開催場所について、玉生運動広場という提案あり、採択 ・ボランティアは公募しないで、各団体から募る
2015年8月1日	10名	上寺島 活性化施設	・開催要領(ステージ関係)の再検討 ・8月11日に町役場にてプレスリリース(不発に終わる) ・来賓、会場イメージ、食材の手配検討
2015年9月20日	13名	上寺島 活性化施設	・来賓、バーベキューセット、会場の確認 ・申し込みは60セット。もう少し声かけを続ける ・次回に鉄板を焼く作業を行う
2015年10月12日	15名	玉生 運動広場	・鉄板を焼く ・申し込みは99セット。セット内容はかなり充実 ・前日・当日の確認

ふるさと高原山を愛する集い当日の準備

8時集合ということで、バーベキューコンロと木炭の設置、会場のレイアウトを順次行いました。バーベキューコンロの設置は比較的順調だったのですが、木炭にはやられました。とあるホームセンターで購入した木炭がかなり不揃いで、のこぎりで切りそろえないと使えない！というハプニングに見舞われ、受付開始時間を急遽10時にしました。(写真の木炭は良かったので、来年も使いたいと思います)。



天気が良かったので、1時間前にご来場される方も多く、今度は受付に長蛇の列。人海戦術で手渡す資料等を配布しましたが、来賓への準備もままならなかったため、ひたすらこなすことに専念しました。何とか開催時間前には落ち着いたため、ホッとしましたが、

「紙皿や割箸の配布はおかしいのではないか！」といわれ、ごもつとも思いながらも、一回目なので配布しました。次回は無料配布を実施しないようにするなど、受付をよりスムーズにしたいと思います。また、バーベキュー参加者以外にも100名程度の参加をいただきました。バーベキュー参加者含めて総勢700名の参加による集いの開催です。



開会あいさつ

ふるさと高原山を愛する集い実行委員会の水野雅章さんが司会となり、開会宣言とふるさと高原山を愛する集いの開催趣旨の説明を行いました。

ふるさと高原山を愛する集い実行委員会の見形和久会長から開会あいさつを行いました。まずは今回の会場は「高原山が良く見える場所」として設定したこと、船村徹先生が体調不良のため来られなくなった旨を説明しました。そして、『ふるさと高原山を愛する集いは、2011年に船村徹先生から、みんなで「山の日」制定をと呼びかけられ開催していること、また、高原山から全国に「山の日」の思いを発信していきたいこと、高原山の恵みを次世代にしっかり引き継いでいくこと、町ににぎわいを取り戻すために来年は是非船村徹先生に来ていただき、高原山の中腹で開催しようではないか』と提案され、会場から拍手が湧き起りました。



会長のあいさつの後、高原山の自然を守る会と花の会の提供によりバルーンPR（風船あげ）を実施しました。川上から川下に向かって参加者一人一人の思いを込めたバルーンが飛び立っていきました。風船の準備をしていただいた皆様大変お世話になりました。



衆議院議員の福田昭夫先生、参議院議員の渡辺美知太郎先生、衆議院議員の西川公也先生の野中秘書からご祝辞をいただきました。福田先生からは「船村徹先生にぜひお会いしたかった。今日は事務所職員と一緒にバーベキューを楽しみたい」、渡辺美知太郎先生からは「豊かな自然たくさんある場所で集いが開催されている。子供や孫にまで



自然を残していきたいし、私も活動していきたい」、野中秘書からは西川先生のメッセージを代読され「緑豊かな郷土づくりのため努力して参りたい」とそれぞれ述べられました。



船村徹先生からのメッセージ

当集い実行委員会の名誉顧問で、作曲家、文化功労者、名誉県民である船村徹先生から届いたメッセージについて、『「高原山を愛する集い」の開催、おめでとうございます。私も参加して、皆さんと高原山を眺めながら、楽しいひとときを過ごす予定にしておりましたが、2日ほど前から風邪の症状がでまして、熱が下がりません。本日は、残念ですが、失礼させていただきます。自分は高原山や男体山など、故郷の山を見ながら育ちました。野や川で、陽が暮れるまで遊びました。大人になって東京で作曲をしましたが、オタマジヤクシの1つ1つに、こうした故郷の原風景がにじんでいるように思う、昨今です。来年から、山の日が「国民の休日」になりますが、言い出しっぺの自分としては、故郷の山が自分にそうさせたように思います。今日は、高原山をゆっくりと眺めながら、偉い奴だとほめてやってください。結びに、皆様方のご健康とご多幸をご祈念申しあげ、私からのメッセージとさせていただきます』と船村徹ふるさと会の青木久子副会長が読上げました。



えひめ憲一さんオンステージ

船村徹先生の内弟子の大門弾さんが恒例の「故郷の山が見える（作詞 木下龍太郎、作曲 船村徹）」を歌われる予定でしたが、船村先生の看病のため、船村徹先生の内弟子でもあった歌手のえひめ憲一さんにオンステージを当日にお願いし、快く受けてくださいました。えひめ憲一さんからは『「山」は険しくも遠くから見れば美しく、じっとして黙りつつ遠くから見守ってくれる存在だ。船村徹先生も「山」のような存在で、我々の弟子をあたたく見守ってくれている気がしています』とメッセージをいただき、「故郷がいちばん（作詞 さくらちさと、作曲 船村徹）」、「故郷の山が見える」、「人生賛歌（作詩 定方正一、作曲 南城徹）」を熱唱されました。



スペシャルトーク「山の日」を今後のまちづくりにどう活かすか？」

(野中英夫さん(船村先生の代役)×小川三夫さん×成川隆顕さん×見形和久会長)

全国「山の日」協議会の成川隆顕顧問は、『船村徹先生が7年前下野新聞の論説にて「山の日」をつくろうと提唱されたことをきっかけに、制定運動が盛り上がり、昨年の国会にて来年から8月11日が16番目の国民の祝日となることが決まりました。「山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する」という趣旨にそって、山と向き合い、山を大切にしようという運動をさらに全国に広げたい。現在全国「山の日」協議会では、来年に向けて「山の日」の歌を船村徹先生含めて複数の方に作曲を依頼しており、作詞を公募している。老若男女の「山の思いを伝える」歌にしていきたいので、ぜひ作詞を応募していただきたい』と述べられました。



当集いの野中英夫顧問からは『県職員時代に「食と農」をキーワードに仕事をしてきました。「食」のことを考えると「農」の大切さに還ってきます。「いただきます」は「生命・生物の命をいただく」という意味であり、もう一度子供たちに伝えていく必要性を今日改めて感じました。私たちはいつも自然の恵みの中で生かされていることを感謝しつつ、足元を見つめながら健康な毎日を心がけたい』と述べられました。



当集いの小川三夫顧問からは『当地に住んでいる人は山が身近にありすぎて本当の山のありがたさ、恩恵に気がつかないという面があるかもしれない。高くて険しい外国の山に登った話も貴重であるが、栃木県内ではやはり身近な山や森林が抱える問題に目を向けていくべきではないか。「山の日」は一人一人が「恩恵をあずかれるような山」を対象にする日がいいと思う』と述べられました。



見形会長は『塩谷町では尚仁沢湧水をはじめとした「水」に育まれています。水のおかげでトマトもおいしいし、切り花も元気だ。「水」を次世代に継承していけるように、山を守り、山を手入れすることが大切であり、そういった「山の日」の運動を今後も展開していきたい』と締められました。



情報提供「山の日」に関連する動向」

当集いの市川貴大事務局長は、『船村徹先生は「海・山・川はそれぞれ女房、親父、子供の関係」とか「川上と川下の関係」を指摘され、このことが国民の祝日「山の日」の制定の原動力になりました。

高原山の自然を守る会の故和気辰夫会長は「戦後まで町民は山の神、田の神を大切にしてきた」とおっしゃっていたように、我々も今一度山の神、田の神を大切にしていこう』と会場に呼びかけました。

バーベキュースタート

バーベキューセットが配布され、木炭の着火が開始されました。風が結構あったので、予想以上に着火が良かったようです。牛肉、豚肉、ホルモン、ウインナー、野菜、やきそばをセットにしたので、皆さん思い思いにジュージュー焼いていました。あとはだいわさんによるいも汁を提供しました。大人気でした。前日に決まった塩谷町観光協会からの「さといもコロッケ」の提供、現地で揚げてくれたので、皆さん大満足でした。

くまの木里山応援団による「エコストーブ」による枝を使つての「羽釜ごはん」の試食会も行われました。新米はJA しおのやさんからご提供いただきました。エコストーブは強風に弱く、応援団員の皆さんは悪戦苦闘しながらも炊き上げてくださいました。「ご飯おいし〜い」ということで、人数分よそつていかれる方も多く、アンケート調査を目的にしていたのですが、回収がほとんどできませんでした。

「強風さえなければ回収作業ができたのに・・・」と思いましたが、好評だったので今回は良しとしたいと思います。



お楽しみステージ

まずはイシヲロシアとそだんべくらぶさんの登場です。イシヲロシアさんは何と旧玉生中学校の卒業生で、校歌を歌われました。「きたかん音頭」では「だがね（群馬県）、そだんべ（栃木県）、そうだっぺ（茨城県）」の掛け声で盛り上がりました。また、「上を向いて歩こう」などの歌をご披露いただきました。



つづいて、船生地区で活動されている船生昇龍太鼓（斎藤祐子代表）さんが、「太鼓ばやし」、「海野童子太鼓」、「KO-OH call & Respoce（呼応）」を披露いただきました。子供たちの元気いっぱいの演奏に、会場があたたかい空気に囲まれました。船生昇龍太鼓は平成12年に発足し、現在大人5名、子供9名で活動されています。



締めで披露された道下獅子舞は、矢板の川崎城主の塩谷氏が戦の勝利の際や疫病ばらいのため道下地区にある薬師堂に奉納したのが始まりとされ、700年以上の歴史があるようで、今回は特別に御披露いただきました。「棒使いとおかざきの舞」、「かぜかえりの舞」が披露された後、会場からアンコールの声がおこり追加で「花かごの舞」を披露されました。今後も地域に受け継がれていってほしいと思います。



全員参加の高原山クイズ大会

ふるさと高原山を愛する集い実行委員の手塚功さんのリードで、全員参加の高原山クイズ大会を開催しました。今年は多くの方が参加され、自信満々に間違えられた(!?)方々もおられるなど、盛り上がりました。第10問まで行い、全問正解の約20人の方に見形和久会長より、漆原敬さんご提供の旬の野菜セットを贈呈しました。



クイズを通じて、高原山のことをもっと知ってほしいと思います。

(問1) 高原山は、複数の山々の総称である。

「○」 釈迦ヶ岳、中岳、西平岳、鶏頂山、剣が峰

(問2) 高原山の最高峰は鶏頂山である。

「×」 釈迦ヶ岳

(問3) 釈迦ヶ岳の標高は、約2,100mである。

「×」 1,800m (1,795m)

(問4) 高原山は「休火山」である。

「×」 活火山 (他に日光白根山、那須岳)

(問5) 高原山の中腹で採れる刃物のように切れる鋭い石は「石英」である。

「×」 黒曜石

(問6) 釈迦ヶ岳の山頂は、塩谷町、日光市、那須塩原市の3つの町の境にある。

「×」 塩谷町と日光市

(問7) 西平岳の山頂は、日光国立公園のエリアの外である。

「×」 エリア内

(問8) 高原山の東側にある八方ヶ原に咲き乱れるツツジと言えば「ヤシオツツジ」である。

「×」 レンゲツツジ

(問9) 名水百選の尚仁沢の上流の川は黒沢である。

「×」 権現沢

(問10) 和歌「水を越え 岩に至ると 胸をどる 高原山を得しようにわれ」と詠んだ歌人は「与謝野晶子」である。

「○」

(問11) 「与謝野晶子」が生まれたのは、大正時代である。

「×」 明治時代

(問12) 地元の伝説「釈迦ヶ岳の神のしくじり」で、山の神が夜な夜な通った美人が住んでいた塩谷町の地名は、「玉生」である。

「×」 田所



緑化推進「緑豊かな郷土づくりをめざして」

とちぎ環境・みどり推進機構の佐藤崇理事長とマロニエメイツの釜井美由紀さんに、福田富一知事から『平成27年度緑化運動テーマは、「はぐくもう豊かな緑と とちぎの元気」と定めて、山、里、まちの緑化の一層の推進を図り、やすらぎとうるおいのある緑豊かな郷土になるようにしましょう』という県土緑化のメッセージをいただき、ヤマザクラの苗木が来場者に配布されました。



閉会あいさつ

閉会あいさつとして、ふるさと高原山を愛する集い実行委員会の谷畑方夫副会長から「ふるさとを思い、高原山麓での保全活動をみんなで考えよう」というスローガンの下、第3回ふるさと高原山を愛する集いが開催できたことへの感謝の意と、実行委員会や塩谷町職員がボランティアにて運営してきたことへの労いの言葉、来年は国民の祝日「山の日」が制定する記念すべき年でもあり、次回はもっと素晴らしい会にしたいと述べられました。



皆様の御協力を賜り、第3回ふるさと高原山を愛する集いが無事に開催できました。冒頭で申し上げたとおり、企画段階にて二転三転したなかで、何よりもボランティアにて参加して下さった実行委員会メンバーと塩谷町役場の黒田明典さんの御協力なしでは開催することは不可能な状況でした。また、とちぎ音の会には特段の協力を賜りました。

今回はバーベキューコンロの設置までは順調だったのですが、購入した木炭の一部がきわめて使いにくい形状だったので、のこぎりで切ったり、手で割ったりしたため、開催直前までドタバタとなってしまう、来賓並びに参加者の皆様にご迷惑をおかけしたことをお詫び申し上げます。来年は「山の日」として国民の祝日となります。船村徹先生には是非ご参加いただけるように準備していきたいと思っておりますので、今後とも皆様のご協力とご参加をどうぞよろしくお願い申し上げます。

(備考)

・ふるさと高原山を愛する集い実行委員参加者

見形和久会長、谷畑方夫副会長、漆原敬、水野雅章、手塚功、和気芳道、小野崎保男、手塚一信、宇賀神一雄、青木修司、和気仲男、斎藤カツ、小野崎千鶴子、倭文廣、斎藤民枝、沼尾和史、市川貴大（事務局長）、黒田明典（塩谷町役場山の日担当）

・協力団体

塩谷町役場、高原山の自然を守る会、船村徹ふるさと会、花の会、塩谷町写真サークル「あそぼ」、高原山神社、くまの木里山応援団、とちぎ農林倶楽部

・ご協賛（ご協賛賜り厚く御礼申し上げます）

とちぎ音の会、高原山神社、船村徹ふるさと会、古木の会、セラピア基金、写真サークル「あそぼ」、高原山の自然を守る会、JAしおのや、ぶんちく、漆原敬、青木修司、小野崎千鶴子

・平成27年度地域づくり団体活動支援事業にて一部助成を受けて開催されました



(写真は宇賀神一雄さん、青木修司さん、市川貴大撮影)

(この報告については雑誌しもつけの心にて連載予定です)